

「知恵の集積から生まれる『知恵産業の森』の実現  
～京都経済センターと文化庁移転を追い風に～」

謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

昨年は、京都経済センターの建設工事着工や文化庁の本格移転に向けた「地域文化創生本部」の開設、また北陸新幹線の敦賀以西ルートの決定など、京都の将来にとっての大きな出来事がスタートした年となりました。本年は、オール京都の連携の力によって、未来から選ばれる京都づくりに向けた動きを一層加速させて参ります。

世界的な景気拡大や為替などの影響により、今般の景気拡大が戦後 2 番目の長さとなっています。京都においても、インバウンド観光客の増加をはじめとする旺盛な観光需要を受けた観光関連産業や大企業を中心に、業績が改善しつつあります。一方で中小企業の現場では、深刻化する人手不足や後継者不在による事業承継難など、多くの課題を抱えています。世界的な経済の好循環を中小企業にも波及させるためには、自社の将来ビジョンのもとに、AI や IoT、ロボットなどの先端技術を活用して生産性の向上を促すとともに、働き方改革の推進や多様な人材の活用などによって、未来に向けた価値や賃上げの原資を生み出していくことが求められます。

内需主導による力強い経済成長を実現するためには、中小企業が持つそれぞれの知恵を活かし、独自の強みを発揮しながらイノベーションを創造していくことが必要です。本年は「京商ビジョン NEXT」のテーマである「知恵の集積」を加速させていく飛躍の年です。これまでの知恵ビジネスに関する支援により、1,700 社にまで広がった知恵ビジネス企業をさらに拡大し、京都の未来を拓く産業群として集積させていくことが、中小企業の力強い成長に大きく寄与するものと確信しています。

「知恵産業のまち・京都」の基盤となり、イノベーションが創発される“場”となるのが、平成31年春に完成する京都経済センターです。本年は、その完成を間近に控える重要な1年であり、センターの機能強化や活用方法について、京都府や京都市、その他関係団体と大詰めの議論を進めていくこととなります。「京都経済百年の計」にふさわしい拠点となるよう、完成に向けて全力で取り組んでいく所存です。

本年の干支は「つちのえいぬ戊戌」です。戊は“茂”が変化したもので、植物の成長が絶頂期にあることを示しており、また、犬は一度にたくさんの子を産むことから、安産の象徴となっています。京都経済センターの完成や文化庁の移転などを追い風にして、これまで集積してきた知恵ビジネスが新たな知恵を生み、未来に向けて大きく生い茂る「知恵産業の森」を実現できるような年にしたいと思っています。

本年が皆さまにとって、実りある年となることを祈念いたしますとともに、本所活動への一層の参画をお願い申し上げ、新年のあいさつといたします。